

住友金属工業株式会社 2010 年度決算説明会  
(2011 年 4 月 28 日開催) 質疑応答の概要

説明会出席者 専務執行役員 瀧井 道治  
経理部長 加藤 聖二  
広報・IR部長 増田 信昭  
IRグループ長 星 正人

**(東日本大震災の影響に関して)**

Q 1) 2011 年度に発生を見込んでいる震災影響の特別損失 150 億円の内容は？

A 1) 第 1 四半期に鹿島製鉄所が、通常稼動に戻るまでの間の出荷量減少影響は約 60 万トンと見込んでおりますが、これに相当する操業度損失額です。なお、製鉄所が完全復旧するまでに発生が見込まれる増加コストについては、2011 年度発生見込み分についても、既に 2010 年度の特別損失 620 億円に計上しています。

Q 2) 鋼材需給状況を原因として、鹿島製鉄所の操業状態の復旧が 6 月以降に遅延する場合は、この 2011 年度の特別損失 150 億円は拡大することになるか？

A 2) この特別損失には影響しません。仮に鋼材需給影響によって平常状態への復帰が遅延することがあった場合の影響は経常利益に出ることになります。

Q 3) 2011 年度に見込まれる震災被害の影響額に関して、経常利益への影響  $\Delta$  50 億円と限界利益の減少との関係は？鹿島製鉄所の完全復旧まで 1 年半ほどかかるという新聞記事も出ているが、もしそうなった場合、エネルギーバランスの悪化や異常原価等によるロスコストを更に追加で計上することになるか？

A 3) 2011 年度の経常利益への影響  $\Delta$  50 億円は、1Q 出荷減見込みの 60 万トンに対する、販売価格から製造原価を差引いた販売マージンの悪化額です。この販売マージンの悪化額  $\Delta$  50 億円に、出荷減見込み 60 万トンに対する操業度損失にあたる特別損失  $\Delta$  150 億円を加えた、計  $\Delta$  200 億円が、11 年度の限界利益の減少額として見込まれるものです。完全復旧までにかかるロスコストについては、原状回復費用として 10 年度の特別損失で全て計上していますので、追加計上はありません。

Q 4) 震災被害による税前キャッシュフローへの影響額  $\Delta$  1000 億円の支出のタイミングはいつ頃か？

A 4) 大半は 2011 年度内の支出を想定していますが、復旧設備投資については 2012 年度に支出がずれ込むものもあります。

Q 5) 震災影響として、2011 年度第 1 四半期は和歌山製鉄所から鹿島製鉄所にスラブを支援供給する為に、スラブの販売数量の調整があるとのことだが、これは国内顧客だけでなく海外のアライアンス先でもあるのか？

A 5) 国内のアライアンス先に出荷納期の調整をお願いしております。

Q 6) 2011 年度のコスト削減額は、通常のコスト削減と震災後のリカバリープランでの更なるコスト削減を合わせてどの位を見込んでいるか？

A 6) 2010 年度のコスト合理化は 200 億円を達成しました。2011 年度はこのような通常のコスト削減に加えて、リカバリープランによる 240 億円のコスト合理化の追加を目指しています。

Q 7) 原材料についての震災影響は？

A 7) 震災影響により高炉を休止し、鹿島製鉄所での原材料の入荷が無かった期間があったため、原材料の入荷は若干遅滞している状況です。その遅延分については新年度の契約価格ではなく、旧年度の契約価格での受け入れとなると考えられます。  
また 2011 年度第 1 四半期も、新年度の契約価格での原材料コスト影響の発生が遅れることが想定されますが、まだ配船調整中のものもありますので、明確に見通せる状況ではありません。

Q 8) 住金小倉の稼働状況は？

A 8) 小倉は、自動車向け製品が多いため、足下は通常操業よりも若干落ちる 8~9 割の稼働状況です。なお、小倉では震災被害を受けられた他ミルへの支援供給もありますので、一概に自動車生産の影響のみを反映している訳ではありません。

### (シームレスパイプに関して)

Q 9) OCTG のスポット市況が足元で大きく上がってきているが、需給への影響は出てきているか？販売数量の方向性は？

A 9) 市況は上がってきており、当社の鋼管受注も順調です。販売数量は 2010 年度よりも増加すると見込んでいます。

Q 10) 2011 年度第 1 四半期は原材料価格が上昇しているが、これは販売価格へ反映可能か？  
マージンの悪化を想定しているか？

A 10) シームレスパイプの長期契約につきましては、原材料価格の上昇分を価格転嫁可能な形態となっておりますので、価格への反映までの時期ずれはあるもののマージンの悪化は想定していません。

Q 11) 更にスプレッドを拡大していく状況にはまだ至っていないのか？

A 11) 当然営業部門は需給バランスを見ながら、スプレッドの回復を目指した販売価格の交渉を実施しております。ポジティブな要因としては、エネルギー需要が上向きであるということ、ネガティブな要因としては、供給面では依然として中国製品が生産過剰状況であるということです。

Q 12) 宝山鋼鉄がハイエンド品生産を開始した等の報道があるが、どのように見ているか？スーパーハイエンド品の今年度の需要は？

A 12) 中国の鋼管メーカーの大半はローエンド品のサプライヤーですが、宝山や天津鋼管はハイエンド品市場への参入を狙っています。当社は、素材の開発力や、世界最高品質の継手技術、顧客サービスといった総合力で、将来的にも差別化を維持可能と考えております。スーパーハイエンド品の需要は、短期的には増減がありますが、油井環境の苛酷化は進行していくことから中長期的には拡大していくと見込んでいます。